

「故郷は変わったのか」－立論①－

「変わった」側の立論

司会            それでは、ルールに従って第4回ディベート討論会を始めます。最初に変った側の立論を始めてください。時間は3分です。      (変) 変った側      (不) 変わらない側

菅野 (変)      これから、僕たち変った側の立論を述べさせていただきます。私たちが故郷が変ったと主張する根拠は3つあります。

まず第1に、故郷の雰囲気が変わったということ。第2に、実際に故郷に住む人々やマイホームの変化などが見受けられるということ。第3に、戦争や皇帝などの専制君主制による政治の悪化によって生活が圧迫されたことです。

では、内容を説明させていただきます。

第1の根拠については、第3の根拠と重なるところもあると思います。では第1の根拠ですが、1911年辛亥革命により、皇帝の国民生活を圧迫した政治を倒し、希望が出てきます。しかし、その後の苦しい生活から感じる絶望感。今、故郷の人々は、そんな希望と絶望という矛盾の中で生活しており、「わたし」が生活していた頃とは、雰囲気がまるで違うものだとも私たちは考えます。

次に、まず第3の根拠について述べさせていただきます。みなさんも、ご存じの通り、中国は日清戦争において多額の賠償金を支払うことになりました。それによって、政治はさらに圧迫したものになり、それを倒すために1911年に辛亥革命が起きたのです。だから、中国は日清戦争から辛亥革命の間に国力を使い果たす、つまり、貧乏になっていくのです。これが、第1の根拠の苦しい生活になる理由であり、歴史的に見て変化があったという根拠です。

最後に、第2の根拠ですが、123ページ10行目にもあるように、我が家の変化です。さらに、レントウやヤンお婆さんの変化などが見られます。このような実際の変化からも、第3の根拠で説明しました貧乏になっていったということがわかるのではないのでしょうか。

では、この3つを変った側の根拠とし、立論を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

司会            ありがとうございました。時間は2分20秒でした。